

# 海洋ごみと向き合う

昭和29年2月11日、福井県三方郡の

北西郷村、南西郷村、耳村、山東村

の4つが合併し、

美浜町は誕生しました。

かつて、この地域は「みみのしょう弥美庄」と

呼ばれていたことから「美」の字を、

4村とも海に接し、美しい浜辺が

あることから「浜」の字を使い、

美浜町と名付けられました。

近年は、日本海から押し寄せる

海洋ごみが増え、美しい浜が

脅かされています。

あなたは、この砂浜を見て

「美浜町に住んでいます」と

胸を張って言えますか。

美浜町には、この状況と

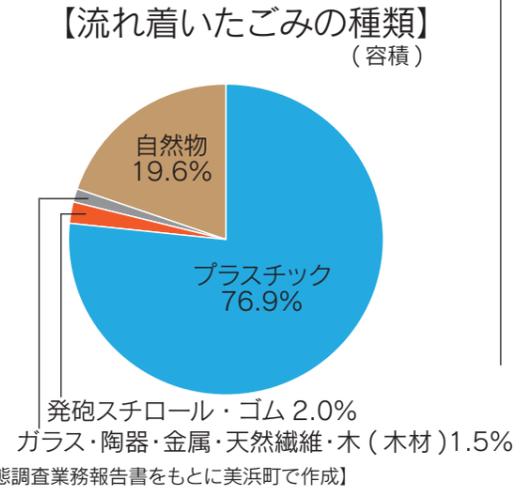
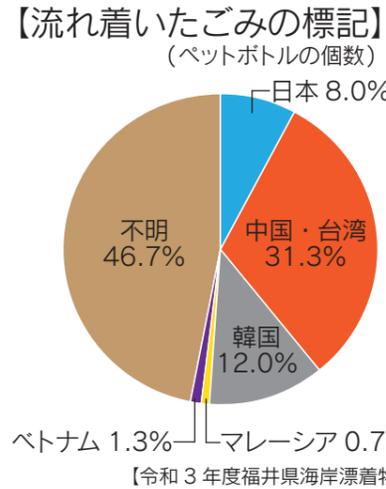
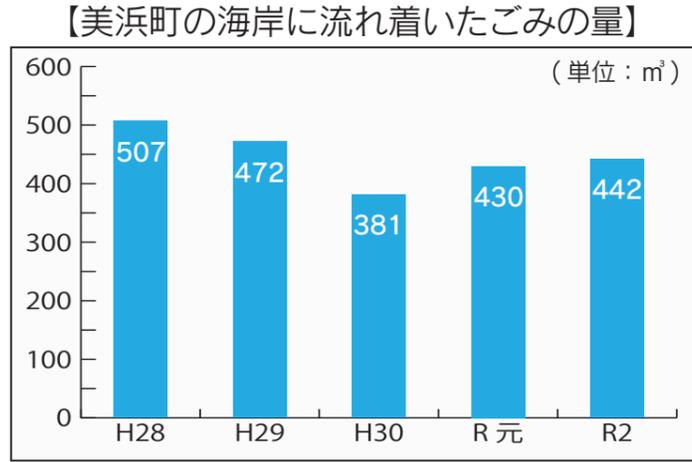
向き合い、美しい浜を後世に

残すため奮闘する人たちがいます。

訪れた多くの人を魅了する美しい浜

を守るため―。

# 美浜町に 流れ着くごみ



【令和3年度福井県海岸漂着物等実態調査業務報告書をもとに美浜町で作成】

浜辺を歩いてみると、足の踏み場がないほど、一面に広がる海洋ごみ。白いはずの砂浜は、色とりどりのプラスチックで彩られ、大自然とはほど遠い景色が広がっていました。

近年、町の海岸には、多いときで年間約500m<sup>3</sup>を超える海洋ごみが漂着しています。これは、約0.75m<sup>3</sup>を積載できる軽トラック、約666台分に相当します。また、この量は、町が実施した事業で回収・処分した海洋ごみのみで、実際には地域の清掃活動やボランティア活動で回収・処分したごみも発生しており、それらを含めると、さらに多くの海洋ごみが漂着していることとなります。

県が、令和2年度と令和3年度に水晶浜で実施した調査によると、漂着ごみの種類は、プラスチックや流木、漁網ロープ等さまざまなで、標記を確認すると日本語以外に、中国語や韓国語の物が多

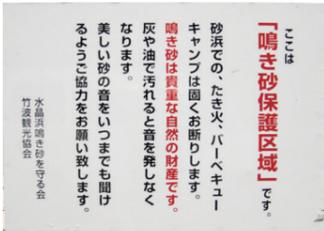
くを占めていることが分かっています。漂着ごみのうち、7割以上を占めているプラスチックごみは、紫外線等の影響により劣化し、小さく砕け、マイクロプラスチックとなつて回収することが難しくなります。

マイクロプラスチックを魚等の生き物が食べ、それを人間が食べることで、体内にプラスチックが取り込まれ、人体に影響が及ぶことが懸念されています。

また、海洋ごみは世界的にも増加傾向で、このまま増え続けると、2050年の海は、魚等の生き物よりも海洋ごみが多くなると予測されています。



竹波区長  
澤田 忠義 さん (竹波)



↑ 鳴き砂を守る呼びかけを行うため水晶浜に設置された看板

## \* 区民全員で水晶浜を守る

竹波区では、春先に区民総出の浜清掃を行っています。例年5月に五木ひろしふるさとマラソンがあり、多くの方が訪れることからこの時期に行っています。近年は、水晶浜に漂着する海洋ごみが多くなっているように感じます。特に、今年はまだごみ回収は、人海戦術でなんとかありますが、集めたごみの処分にはどうしてもお金がかかってしまい、困っています。

## \* 鳴き砂が鳴かない

10年程前は、水晶浜の砂浜を歩くとき「キュッ、キュッ」と砂の擦れる音を聞くことができました。きめ細かい砂の粒同士が擦れ合つて、高い音が発生していました。

しかし、近年は砂浜を歩いてその音を聞くことはできません。

原因が、海洋ごみなのかどうかは分かりませんが、砂浜の状態が昔より悪くなっているのは確かです。昔のように、鳴き砂の音が聞ける水晶浜を取り戻したいと思いますが、そう簡単なことではないと実感しています。

## \* 今後の水晶浜

砕けた小さなプラスチックが砂浜に散らばっており、一つひとつを手で拾うのは、キリがありませんし、ビーチクリーナーでも小さいごみまで拾うことはできません。砕けた小さなプラスチックを効率よく回収するには、砂をふるいにかけるしかなく、大人数でそのような清掃活動ができないかと思っています。

いろんな方の知恵や力を借りて、きれいな水晶浜を保っていきたいです。

## 地域での活動

### \* 私たちは海の恵みで育った

私たちは、小さい時から海で遊んだり、癒されたりして海からいろいろなものを感じてきました。近年は、多くの海洋ごみで海岸が汚れてしまい、海を見ることが悲しくてできません。区民総出で清掃を行い、きれいになつても、1週間程度で元の汚い砂浜に戻ってしまいます。私たちがだけの力では、海岸をきれいに保っていくことが難しいと感じています。

### \* ごみの質が昔とは違う

私たちが子どもの頃、海岸に落ちているごみは、流木や海藻、草がほとんどでした。しかし、最近では、カラフルなプラスチックや漁具がほとんどで、人工物がとても多いと感じています。流木等の自然のごみは、時間が

経てば自然に戻りますが、人工物は何年経っても残ってしまい、マイクロプラスチックになればさらに厄介になります。そうなる前に回収できないかと思っています。

### \* 箱根駅伝で見た湘南の海

テレビで箱根駅伝を見ていると、湘南の海岸がよく映り込みます。私は、その映像を見て、ショックを受けました。なんてきれいな砂浜なんだと。美浜町の海岸も、湘南の海岸のようにできないかと思っています。

### \* 災害ボランティアのような取り組みを

災害が起きると、ボランティアで被災地に行つて活動する人たちがたくさんいます。そんな人たちに呼びかけをして、海岸の清掃を恒常的にできないかと思っています。そのためにも、美浜町は海洋ごみで困っているということを大々的に全国に発信することが必要だと思っています。



久々子区長  
柴田 利郎 さん (久々子)

# 私たちが感じたこと



美浜東小学校  
大野 心晴 さん（坂尻）

海洋ごみに関する活動をしている人はたくさんいますが、ごみは減っていません。もっとたくさんの方が、協力してごみを減らしていけるといいなと思います。

<p><b>今までの取り組み</b></p> <p>美浜東小学校では、海洋ごみ問題の解決に向けて、様々な取り組みを行っています。その一つが「重さピタリ選手権」です。これは、海洋ごみを減らすための取り組みの一つとして、児童たちが参加し、重さの異なる海洋ごみを拾い、それを重さで競うというものです。この活動を通じて、児童たちは海洋ごみの問題について学び、問題意識を高めることができました。</p>	<p><b>海ゴミ新聞</b></p> <p>美浜東小学校では、海洋ごみ問題の現状や取り組みについて、児童たちが作成した「海ゴミ新聞」を発行しています。この新聞には、児童たちの感想や、海洋ごみ問題に関する情報などが掲載されています。この新聞を通じて、児童たちは海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。</p>
<p><b>岩出浜の現状</b></p> <p>岩出浜には、海洋ごみがたくさん漂着しています。これは、海洋ごみ問題の現状の一つです。児童たちは、この現状を学び、問題意識を高めることができました。</p>	<p><b>感想とこれから</b></p> <p>児童たちは、この活動を通じて、海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。また、自分たちができることを考え、協力してごみを減らしていけるといいなと思います。</p>



美浜東小学校  
山路 倅彩 さん（太田）

調査活動を進めるなかで、海洋ごみが年々増えていることを実感しました。さまざまな取り組みを通して海洋ごみが減ったと実感できるようにしたいです。

<p><b>岩出浜にゴミ拾いに行くまで</b></p> <p>児童たちは、岩出浜に海洋ごみを拾いに行くために、事前に準備を行いました。その一つが「重さピタリ選手権」です。これは、海洋ごみを減らすための取り組みの一つとして、児童たちが参加し、重さの異なる海洋ごみを拾い、それを重さで競うというものです。この活動を通じて、児童たちは海洋ごみの問題について学び、問題意識を高めることができました。</p>	<p><b>海ゴミ拾い新聞</b></p> <p>美浜東小学校では、海洋ごみ問題の現状や取り組みについて、児童たちが作成した「海ゴミ拾い新聞」を発行しています。この新聞には、児童たちの感想や、海洋ごみ問題に関する情報などが掲載されています。この新聞を通じて、児童たちは海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。</p>
<p><b>これからの海</b></p> <p>児童たちは、この活動を通じて、海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。また、自分たちができることを考え、協力してごみを減らしていけるといいなと思います。</p>	<p><b>感想とこれから</b></p> <p>児童たちは、この活動を通じて、海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。また、自分たちができることを考え、協力してごみを減らしていけるといいなと思います。</p>



美浜東小学校  
辻井 咲俐 さん（佐田）

海に限らず、道端等にごみを捨てる人を見かけたら、注意したいと思います。一人ひとりの行動が海洋ごみを減らすことにつながると思っています。

<p><b>一学期に学んだ事</b></p> <p>児童たちは、一学期の間、海洋ごみ問題について学びました。その一つが「重さピタリ選手権」です。これは、海洋ごみを減らすための取り組みの一つとして、児童たちが参加し、重さの異なる海洋ごみを拾い、それを重さで競うというものです。この活動を通じて、児童たちは海洋ごみの問題について学び、問題意識を高めることができました。</p>	<p><b>海ゴミ拾い新聞</b></p> <p>美浜東小学校では、海洋ごみ問題の現状や取り組みについて、児童たちが作成した「海ゴミ拾い新聞」を発行しています。この新聞には、児童たちの感想や、海洋ごみ問題に関する情報などが掲載されています。この新聞を通じて、児童たちは海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。</p>
<p><b>感想</b></p> <p>児童たちは、この活動を通じて、海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。また、自分たちができることを考え、協力してごみを減らしていけるといいなと思います。</p>	<p><b>これから</b></p> <p>児童たちは、この活動を通じて、海洋ごみ問題について学び、問題意識を高めることができました。また、自分たちができることを考え、協力してごみを減らしていけるといいなと思います。</p>



① どんごみが漂着しているのか②重さピタリ選手権  
③袋に入りきらない大きなごみもたくさん漂着している  
④ 6 送会で披露した劇「私たちが変える未来～岩出浜太郎物語～」

## 地域の課題に触れ、解決への糸口を 小学校での学習

町内3つの小学校では、美浜の良さや課題について2力年で学習する「ふるさと美浜元氣プロジェクト」に取り組んでいます。この取り組みの中で、美浜東小学校の6年生は、海洋ごみについて探求します。生まれたときから身近にあった海で今、何が起きているのか。

**\*美浜の良さを調べて分かった**

美浜東小学校の6年生は、美浜の良さを調べていくなかで、美浜町は自然が豊かだが、海岸には多くの海洋ごみが漂着していることに気付きます。児童たちは、海洋ごみに関する活動をしている団体等の講演を聞いたり、自ら調べたりして海洋ごみが世界的な問題となっていることを知りました。

**\*普段はなんとも思わない**

美浜町で生まれ育った児童たちにとって、海はとても身近なものです。そこに海洋ごみが漂着していることも認識はしているものの、意識をしておいたことはありませんでした。しかし、この活動を始め「どのよな海洋ごみが漂着しているのか」「どれくらいの量が漂着しているのか」といった疑問を持つようになり

**\*ただごみ拾いをしても**

どうしたら、きれいな海岸になるのか。児童たちは意見を出し合います。まずは、ごみ拾いをしようと考えましたが、ただごみ拾いをするだけでは、おもしろくないし続かない。そこで、誰もが楽しんでごみ拾いができるよう、さまざまな提案をしました。

**\*自分たちでやってみよう**

児童自らが出した提案の中で「重さピタリ選手権」という案を採用し、実際にやってみるため、岩出浜（山上）に向かいます。重さピタリ選手権とは、ごみを回収し、自ら宣言した重さ通りもしくはそれに近い人が勝ちというルールのもと、ごみ拾いを行うものです。自分たちで考えた新しいごみ拾い

**\*たくさんの人に知ってほしい**

児童たちは、この活動を通じて学んだことを1人1枚の新聞にまとめ小学校の玄関に掲示しました。新聞では、このままだと2050年には、海に生息する魚よりも海洋ごみの方が多くなってしまうことやマイクロプラスチックを食べた魚を人間が食べることで体内にプラスチックを取り込んでしまうこと等、児童一人ひとりの観点を書かれています。

また、3月10日に行われた6送会（6年生を送る会）では「私たちが変える未来～岩出浜太郎物語～」と題し、海洋ごみで竜宮城に行くことができなくなった亀のために奮闘するオリジナルストーリーの劇を披露し、他の学年へ海洋ごみの問題提起や取り組みの報告を行いました。

海洋ごみ×人口減少

# 美しい浜プロジェクト

町では、海洋ごみの問題を解決するため、美しい浜プロジェクトを実施しています。

このプロジェクトでは、町が誇る美しい浜を守るために、さまざまな事業を展開しています。

また、同プロジェクトは、町外に住みながらも美浜町を応援して下さる「みはま応援クルー」の方々が町民の皆さんとともに地域の課題を解決し、町を盛り上げる「応援ミッション」の一つとして実施しています。

## 【展開している事業】

- ① 海岸清掃等のイベント開催
- ② 清掃活動省力化のための海岸清掃機の実証・導入
- ③ さまざまな企業との連携の検討
- ④ 海洋ごみ問題の周知啓発・理解促進
- ⑤ その他、美しい浜を守っていくための活動

## \*さまざまな視点で議論

令和3年7月22日に、県と町の共催で、美しい浜アイデアソンを開催し、24名の参加者が「海岸の漂着ごみ問題」をテーマに議論を行いました。

当日は、5チームに分かれてグループディスカッションを行い、ユニークなアイデアが次々と提案されました。

## 【提案された内容（一部）】

- ・ごみの砂浜アートやGPSアワードで楽しくごみ拾い
- ・ごみ拾いをスポーツ化する等、参加者の動機付けを図る
- ・ドローンを活用した遠隔ごみ拾いイベントの開催

これらの提案をもとに、町ではごみ拾いが楽しく取り組める活動となるよう、ポイント付与等の仕組みづくりを行う予算等を令和4年度当初予算に計上しました。

- ・令和4年度当初予算
- ・スポーツごみ拾い開催に係る費用
- ・活動参加者へのポイント付与を行う仕組みづくりに係る費用
- ・ごみスマートチャレンジ事業（プラスチック代替製品導入補助及び生ごみ処理機や堆肥化容器の購入補助）



14 海の豊かさを  
守ろう

12 つくる責任  
つかう責任

17 パートナーシップで  
目標を達成しよう

## \*水晶浜で清掃活動を実施

令和3年6月13日に、美しい浜プロジェクトの第一弾として、水晶浜での清掃活動を実施しました。この清掃活動は「クリーンアップふくい大作戦3美浜」や「クリーン・ザ・シーキャンペーン」と同時開催され、町民やみはま応援クルーら約140人が参加しました。

参加者たちは、手で拾えるごみのほかに、砕けた小さなプラスチックを回収するため、砂をふるいにかけてる作業を行いました。

今後、町では「美しい「浜」を守るため、海岸清掃活動を実施するだけではなく、清掃活動の省力化や企業連携の検討、クラウドファンディングやふるさと納税を活用した資金調達、町民の環境美化意識向上等、幅広い取り組みを実施していきます。

本町には、水晶浜をはじめとする海水浴場が7箇所あり、夏場は多くの観光客で賑わいます。

海水浴場を開設する集落等では、区民総出で清掃活動を行っていただく等、浜辺の維持保全にご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。

町としても、昨年創設した「美しい浜プロジェクト」を通して、町民と行政、さらには、みはま応援クルー等と連携し、想いを一つにして海洋ごみの問題を解決していけるよう取り組みを始めたところであります。

町民の皆さまには、こうしたプロジェクト等を通して、美しい美浜の海を取り戻すことで、住んでいることに幸せと誇りを実感していただけるよう取り組みを進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



美浜町長 戸嶋 秀樹